

業務の可視化



Plan(計画) Do(実行) Check(評価) Action(改善) サイクルを回し続けて常に精度をUP!

発表者：営業本部 竹村和修



みなさんこんにちは、今回から年1回全社員会議でお話することになりました。お話の内容について考えた結果、今まで自分で経験したこと、取り組んだことを話すことにします。今回は「業務の可視化」についてお話しします。

令和2年7月小牧市業務状況調査支援業務委託プロポーザルの公募を知りました。滋賀大学の横山教授の助言もあり、プロポーザルに参加することになりました。しかし今まで業務支援などしたこともなければ、実績がありません。業務改善について色々調べながら提案書を作成しました。

令和2年8月のプレゼンテーションで、競争相手が4大監査法人の1つ、T社であることを初めて知りました。T社と同じ土俵に立てるななとて思い、この経験を活かしたいと思いました。

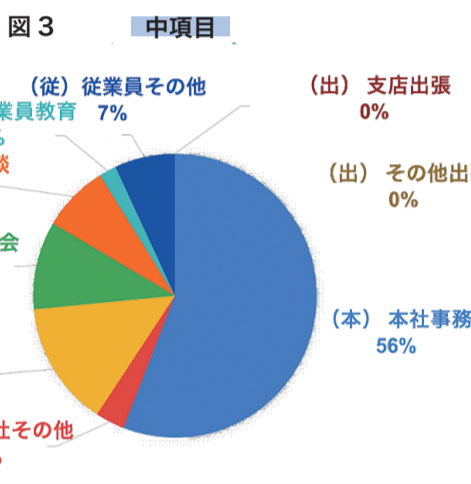
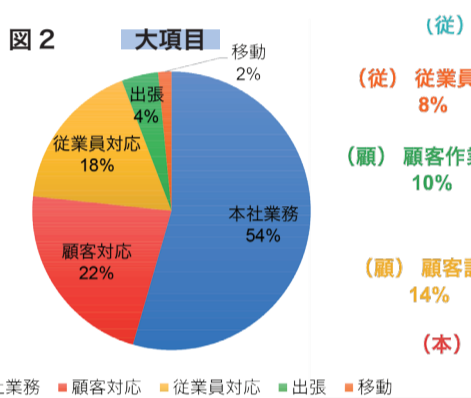
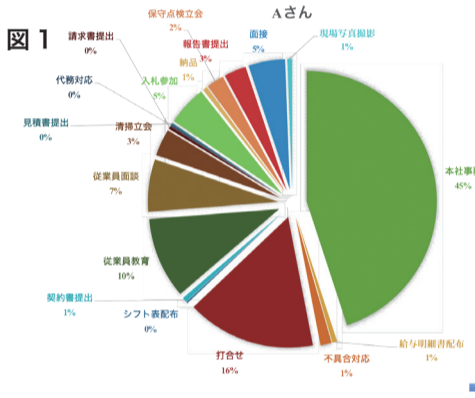
業務状況調査をするためには、業務の可視化の手法が勝敗を左右します。そのため、当社営業管理部の業務の可視化を行うことにしました。

可視化の手法は、営業日報をGoogleフォームで記入し、日報データをGoogleスプレッドシートに蓄積、エクセルに変換後エクセルVBAで個人別にデータをまとめる、プロセスマイニングという手法で可視化をしました。その結果が図1のとおりです。

ごらんのとおり、可視化できましたが、とても細かく見にくいもので、そこは今後の課題にしたいと思います。しかし5人の業務を可視化したことで、本社事務に平均43.4%費やしている、本社事務を10%削減できれば、1日20分、年間86時間業務が削減できることがわかりました。

本社事務の削減方法は、自分の仕事で反復作業などで時間を費やしている業務は、エクセルVBA、Googleフォーム、Python、GASなどを使って効率化が図れます。効率化を図るために、斎藤教授の「DXセミナー」や横山教授の「官民連携セミナー」に参加してひとり一人がスキルアップして、個々の業務の効率化に、三和グループ全社員が取り組んでいただきたいと思います。

全社員会議の発表後、見にくい可視化を見やすくするためにどうすれば良いか考えた結果、活動区分を大項目、中項目、小項目にわけて可視化したものが図2・図3になります。とても見やすくなりました。このようにDXの推進には常に改善PDCAサイクル無くしてDX推進は出来ないと思います。



サワのWw! No.14



私もできる! SDGs ごみの分別

今回は、私たちにとって最も身近で今すぐできるSDGsの取り組み、『ごみの分別』についてご紹介します。これはSDGsの17の目標の中で、目標11.『住み続けられるまちづくりを』、目標12.『つくる責任 つかう責任』、目標14.『海の豊かさを守ろう』に関係します。

皆さんは『ごみの分別』 正しく行っていますか?
 私たちは毎日家庭や職場において様々なごみを捨てています。ごみをひとつも捨てない日はないくらいに、人は生活の中で多くのごみを出します。中でも特に注目されているのがプラスチックごみ。海洋汚染や生態系に及ぼす影響等が問題視されています。分別を正しく行い、資源として再利用することは環境を守ることに繋がります。
 岐阜市でも今年の4月からプラスチック製容器包装の分別収集を開始しました。それ以前からプラスチックの分別に取り組んでいる方も多いと思いますが、あらためてプラスチック製容器包装の出し方(岐阜市)についてご紹介します。

プラスチック製容器包装とは?
 食品などの商品の容器や包装で、中身の商品を取り出した(使った)後、不要となるプラスチック製のもの(ペットボトルを除く)をいいます。

- 出すものにプラマークがついているか確認。
- 中身を使い切り、汚れを取り除く。
 - 汚れのついていないものは、水で軽くすすいだり、拭き取るなどしてきれいにしてから出します。
 - 汚れは見てわからない程度でOK。
 - 洗剤で洗う必要なし。
 - 剥がしにくい紙のラベルは、そのままOK。
- 週1回の収集日に、決められたごみステーションへ朝8時30分まで

捨てればごみ、分ければ資源!
 自分が使って不要になった物のその先を少し意識してみると、自分の行動が変わっていくと思います。日々の小さな取り組みが自然環境を守ることに繋がります。みんなで力を合わせて地球の未来を守りましょう。

● 2021年最優秀作品賞 ●
労働安全衛生標語
 慣れるほど 忘れてしまうその危険 習慣づけよう再確認

◆◆◆ 編集室から ◆◆◆
 今年で3年目に突入した新型コロナ。いつになったらコロナ前にと首を長くして待っていましたが、一向に戻る気配がありませんので最近では感染対策を最大限にしながらコロナ前のように元気よく仕事をする事だ!と思っています(笑)きっとマスク無しの生活が戻ってきます。その時にはマスクを外して満面の笑みで皆様にお会いしたいです。
 さて、(株)三和サービス創立50周年誌がほぼ出来上がって参りました。社内報委員が創立50周年誌の制作実行委員会も務めています。楽しみに待って下さい!次回までには、お披露目できると思います。

三和グループ社内報 2022年 夏号(令和4年7月25日発行)
 発行所 株式会社三和サービス
 本社/〒500-8286 岐阜市西鶴1丁目52番地
 電話/058-273-5653(代)
 Brightness



三和グループが目指すDX化の取り組みについて

Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション) は、なぜDXと略されるのでしょうか。頭文字をとると「DT」となりますが、DTは、HTMLの説明用語要素であるため、プログラミング用語とかぶってしまうことから、Digital TransformationのTransは交差するという意味があるため交差を一字で表す「X」が用いられてDXという略語になりました。
 当グループのDX化の取り組みは一言で言うと「プログラミングを用いて業務効率化・ペーパーレス化に取り組むこと」です。ExcelVBAでExcelの効率化や自動化に取り組む、GAS (Google Apps Script)

でGmailやGoogleスプレッドシートなどGoogleの提供するサービスと連携して業務効率化を図ったり、スクレイピングと言ってWebサイトからの情報収集などが出来るようになることです。最終的には世界で一番使われているプログラミング言語Pythonで機械学習AIを自社開発できればと思います。
 そのために皆さんにお願いです。当グループの従業員は誰でも参加できますので、隔月開催される滋賀大学データサイエンス学部の斎藤教授セミナーを受講してください。

DXセミナー受講希望の方は、本社 竹村までご連絡下さい。